

グループホーム ゆうげん荘

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		運営理念を「笑顔・愛情・尊重」とし、職員は常に勉強し、知識を高め、御利用者の人格や生きがいを最大限に尊重して、楽しく地域に密着した日常生活が送れるよう支援させていただくことに努めています。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		事業所玄関及び申し送り場所である事務室内の一番、目のいく場所に理念を掲示している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		上記玄関において訪問者全ての方に閲覧していただくとともに、事業所外の道路に面した場所に理念を表示した看板を設置し地域の方々や全ての方に御理解いただけるようにしている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		御利用者との散歩時には声を掛け合っていており、運営推進会議委員にも隣近所の方に入って頂いている。また、区の役員方との交流も行っている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域主催のお祭り等には御入居者も一緒に参加させていただいている。また、隣の方には定期的に野菜や果物等の差し入れを頂き御入居者もホームも有り難く頂戴している。

グループホーム ゆうげん荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在具体的な取り組みは行っていないが、今後は事業所や職員を活かし地域に対して介護全般の相談や助言・支援を行っていければと考えている。また、地域の集会的な存在や有事や災害の時等避難所的な存在になればと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を行なう中で、自己評価を通じて改善点を明確にしていき、より質の高い入居者本位の介護がなされる様改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域に開かれたホームを目指して、地域の方や入居者のご家族、有識者、行政の担当者等の参加をいただき、二ヶ月に一回程度の運営推進委員会を開催して、ホームの取り組みや意見交換を行なっている。委員会での意見等は日々のサービス向上に活かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町内事業所で構成するグループホーム協議会等を通じ意見交換や助言を頂いたり、また介護保険関係法令の解釈や運営上の疑問は個別に訪問し、指示や助言を頂きサービスの向上に努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員は研修等である程度理解を持っているが、今後全職員への理解を深める為の勉強会等の学ぶ機会を持ち、全職員が適宜、御入居者や御家族等からの質問や相談に答えることができるよう努めたい。		現在必要とされている御入居者はいないが、今後有識者等を招いたり外部に参加したりと全職員が統一して理解を得られる機会をつくり、必要に応じた対応が図れるよう努めたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修等で学ぶ機会を得ており、ホーム内には身体拘束廃止マニュアルや認知症介護研修センター発行の冊子等を備え十分な注意を払い防止に努めているが、今後は積極的に外部研修等に職員を参加させ理解や認識を深めていきたい。		内部研修の充実と積極的な外部研修への参加を実施し、職員全員の知識や認識を高めていきたい。

グループホーム ゆうげん荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関しては、御入居者のご家族が不安にならないよう十分な説明及び理解を頂き、契約を交わしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム内に「苦情相談窓口」を表示・設置し、玄関にも意見箱を置き内外より自由な意見や苦情等を把握できるよう配慮を行っている。また、御利用者が職員に対し何時でも何でも意見し相談していただける関係づくりに努めている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホームでの暮らしぶりや行事等のお知らせ「ゆうげん荘だより」を毎月ご家族に郵送している。金銭管理は個別の出納帳を付け、毎月ご家族にご報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口を設置している。また意見書箱を置いている。苦情・ご意見があった場合、全職員に報告し対応策を話し合い改善していき、ご家族に返答している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>最低月1回の運営を含めた全ての事項に対するの全体会議を行うとともに、職員全員が率直に意見を出せる会議環境作りに努めている。会議における決定事項に関しては出来る限り日時や数値を決め実行し、運営に反映させている。必要に応じ緊急的な会議の開催も行っている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じ上記会議や緊急会議を開催し対応を協議・検討し、御利用者の不安や不自由な勤務体制に努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職は御利用者への不安を招く大きな要因であると考え、離職を最小限に抑えるよう離職希望がある場合においても相互協議を行う場を設けるなど最善を尽くしている。</p>		

グループホーム ゆうげん荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>募集及び採用に関しては、社会人としての人間性・福祉に対する仕事観や使命感、向上心等を重視しており、年齢や性別により左右されることはない。事実、現在の年齢幅も広い。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>定期的な全体会議の中や日々の申し送り時等で御入居者に対する人権の尊重、権利擁護を促している。また、今後積極的な勉強会や研修会を行いたい。</p>		<p>今後も継続的に定期的な勉強会や研修会を有識者等を招き実施を行い、職員の人権教育と啓発活動に取り組んでいきたい。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は経営上も運営上も職員の質の向上が最重要であると考えており、介護という専門性にとらわれず研修や講演会等に参加する機会を確保している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>町内12のグループホームで構成し定期的開催する協議会に職員も参加していると同時に、相互訪問や電話等により意見交換、情報交換を行い交流を深めるとともに質の高いサービス提供に取り組んでいる。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>勤務表を作成する際には休日や夜勤の希望等出来る限り聞き働きやすい環境づくりに努めている。また定期的な会議の中でどのような事項でも発言できる時間を設けている。</p>		

グループホーム ゆうげん荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々の業務については完全なマニュアル化は避け、御利用者が不自由ない限り個々の職員が活かせる業務遂行を心がけるとともに、職員間に偏った負担等ができないよう配慮している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御本人からの訴えや希望等々には良く傾聴し、安心・納得していただくことで良い信頼関係が築けるよう努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族と少しでもコミュニケーションを多くとることに意識をおき、介護に関することのみならず、お話頂けることであれば何に対しても相談、意見、支援を行っている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた場合においてはグループホームのみならず必要とする支援により他サービスの御提案や御紹介も進んで行っている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	御利用開始前に御利用者及び御家族と十分な意見交換や相談をお受けするとともに、御利用者に何度か訪問していただいたり、また職員が訪問したりと段階的な利用開始を行い不安のないよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	御入居者と介護職員という立場にとらわれず、「人生の先輩」という尊敬の念を意識した上での支援に努めている。職員が調理方法等生活していく為の質問や相談を御入居者にすることも良く見受けられる。		

グループホーム ゆうげん荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族の訪問時や電話時には必ず用件のみならず、細かな喜怒哀楽についても近況報告を行い御入居者に関する情報を共有するよう努めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御利用者の歩んでこられたこれまでを理解したうえで、御家族と疎遠になりがちな御利用者には定期的なホームの発行物の郵送に加え職員直筆の「近況報告」とした手紙を郵送したり、電話にて近況報告をし場合によっては御利用者や電話を変わったりしている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人や御家族に日々、馴染みの人への連絡やホームへの訪問を進めたりしている。希望に応じて馴染みの店等へ行く支援も行っている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々のテーブル席や外出時の車の座席位置等、利用者同士の関係を強く配慮したうえで行っており、そのためお互いを心配されたり助け合いの場面も見受けられる。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や関連施設への転居により退去された方からの相談等にも気軽に応じている。退去された方が頻繁に訪問されたり、また現在の御入居者と手紙や電話で交流を続けている光景も見受けられる。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人との日々の対話やコミュニケーション、また御家族との交流の中で十分に希望や意向を把握し実行するよう努めている。		

グループホーム ゆうげん荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御入居前より御本人及び御家族からの十分な聞き込みを行うとともに、御入居後も日々の生活支援や対話等から情報の増幅に努めている。また職員間による把握した情報の共有にも気を使っている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	御入居者のその日その時を踏まえたりリアルタイムの状態把握を職員間で連携し把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	御本人の希望や御家族等の意向に出来る限り添えるような介護計画づくりに努めている。また、職員の全体会議にも個別の御入居者について話し合う時間を設け、職員全員で統一して積極的に支援できる体制づくりにも努めている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	御入居者の日々の変化や状態に十分配慮をしながら、必要に応じて介護計画の見直し、変更を行っている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	御入居者の個別記録である介護記録や業務日誌、申し送りノート、各種チェック用紙等を参考にし職員全体会議を開き、職員同士の意見交換や情報交換も行い、情報を共有しながら支援の実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	御本人や御家族からのその時々々の要望は最大限尊重し、出来る限りの対応や支援を行っている。		

グループホーム ゆうげん荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	体操やエステ等地域ボランティアの協力により定期的に訪問していただいている。また、警察官に定期的な立寄りをお願いしたり、消防署や社会福祉協議会等に助言を頂いたりしている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前の担当ケアマネジャーやサービス事業者とは入居後も日頃より接点をもち、必要に応じて連絡や意見交換を行っている。また、他のサービスとしては訪問歯科等の支援を行っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ御入居者の意向や必要性はないが、今後運営上必要性に応じて行っていきたい。		必要に応じて権利擁護や長期的なケアの方向性や取り組み等については地域包括支援センターと協働させていただきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人及び御家族の希望に応じた医師や医療機関への受診支援を行っており、新たに受診が必要な場合にも御本人や御家族の希望を最優先している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	御入居者それぞれのかかりつけ医が専門医ということもあり、受診時には職員が同行し近況報告や相談を行っている。また、必要に応じて電話等により助言を頂いている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員の配置は現在行ってないが、関連法人の運営するグループホームが近隣にあり看護職員がいるため、相談や助言を日々行っている。また、今後看護職員の配置を当ホームにおいても行う予定である。		今後、看護職員の採用を積極的に行ってきたい。

グループホーム ゆうげん荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中も職員が定期的に病院へ訪問し御家族、担当医や看護師と密に情報交換を行い、少しでも早い退院と退院後の対応等に常に配慮している。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について職員間での話はあるが、御本人や御家族、医師等と具体的な話し合いは現在行っていない。		重度化した場合や終末期のあり方について職員の知識や認識を高める取り組みを行っていくと共に、御本人や御家族、医師等と話し合いを設け方針の共有を行ってきたい。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	具体的取り組みは実施していないが御入居者の重度化や終末期に対する支援に関しては全職員統一して重要な項目と考えており、内部研修会等で今後に備えると共に、御家族や医師等と連携を図りチームとして支援に取り組んでいきたい。		重度化や終末期支援に関しては全職員統一して重要項目と考えており、内部研修等で今後に備えると共に、御家族や医師等と連携を図りチームとしての支援体制づくりに努めたい。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住むことになった場合には、御本人及び御家族、それに関わる関係者等で十分な話し合いや情報交換を行い、御本人・御家族が安心して住み替えが行えるよう支援している。また、住み替え後も必要に応じて支援や相談等を行っている。		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が居室等プライベートルームへ入室する時には必ずノックと声掛けを行うよう徹底しているとともに、言葉かけは御入居者の自尊心やプライド、羞恥心に配慮し行っている。個人情報の取り扱いにかんしては入社時に誓約書を交すとともに日々の業務でも注意を促している。		

グループホーム ゆうげん荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	御本人の思いや希望が自然な形で表わせるような援助を心がけているとともに、何かの意思決定には御本人の意思を第一に尊重に実行にうつしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御入居者の個人個人のその日その時その状況のニーズに合わせた支援を基本とし、御入居者の希望やペースを大切にしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望により御本人の指定する店を利用している。その日の衣服等も御利用者の意思を最優先するとともに、状況に応じた声掛けで御本人らしいみだしなみが行えるよう支援している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつには御利用者の要望を出来る限り取り入れることに配慮している。食事の準備・配膳・下膳・片付けには数名の御利用者と一緒に毎日行っている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	疾病に配慮しながら、入居者の嗜好を取り入れている。(食事時外の飲み物も各自お茶・コーヒー・牛乳・スポーツ飲料・コーヒー牛乳とそれぞれ好みの物を飲まれている。)		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	御入居者の排泄パターンを把握し、気持ちよくトイレで排泄していただける様心がけており、可能な限り自立を促す支援や介助を行っている。		

グループホーム ゆうげん荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	御入居者のその日その時を体調等に合わせて、気持ちよくゆったりと入浴して頂ける様子を配っている。また、出来る限り御入居者のプライバシーを守るとともに必要に応じて介助や見守りを行っている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	御入居者の習慣やその日の体調、考えや希望通りの睡眠を心がけ、不穏や不安を訴える場合には会話にて安心していただいたり自然な入眠ができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	御入居者お一人おひとりの生活歴や持っている力を活かせるよう役割や趣味を取り入れた支援を行っている。例えば調理師歴のある方には食事の相談をしたり、お手伝いをして頂いたりしている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理可能な御入居者には自己管理して頂き、困難な方には御家族と相談・了解の下、ホームで管理し定期的な領収書等を添付し収支報告を行っている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	御入居者お一人お一人の希望や気分に合わせて、散歩やドライブ、買い物等の外出支援を行っている。御自分で散歩等に出かける御入居者には気分良く気軽に外へ出かけて頂ける様、何気ない感じでの見守りや声掛けに努めている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	初詣、花見、紅葉見学、外食等行事として取り組んでいる。また、ご家族と頻りに外出される御利用者もいる。		

グループホーム ゆうげん荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用可能なように共用空間に設置している。また御家族の誕生日等には声掛けにて電話を促している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでもお気軽に訪問していただけるよう、通信物や訪問時の言葉掛けには十分な配慮をされており、日中夜間を問わず開放的な対応を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員により理解や知識度合いの違いはあるが、ホームに身体拘束マニュアルを設置したり、日々の業務の中で正しい理解の徹底を行っている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠しないことの重要性を強く認識し、日中はいかなる場所も施錠は行わず開放的な空間作りに努めている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	必ずロックや声かけを行ってからその所在確認等を行なうなど、個々の状況や状態に合わせ常にプライバシーの配慮に努めている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室内も一律になくすのではなく、出来る限り御入居者それぞれの馴染みの物や希望の物品、また必要な物品を置くよう支援していると共に、個々に添ったリスクには十分配慮を行っている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止には御入居者の状態や状況に応じて常に注意を払っている。転倒等の事故が起きた場合には全員で話し合いを持ち再発防止に努めている。リスクマネジメントについての会議や勉強会も今後は積極的に行っていきたい。		

グループホーム ゆうげん荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や初期対応への定期的な訓練は現在行っていないが、対応マニュアルは各種備えている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の御協力で避難訓練を実施したり、定期的に警察官立ち寄りをして頂いている。今後は消防関係法の変化等もあるが、積極的に定期的な避難訓練やホームにおける防火設備の見直し等を進めていきたい。		定期的な避難訓練を実施し御入居者及び職員に対する危機管理の徹底を行うとともに、地域の御協力が頂ける防災対策づくりに取り組んでいきたい。また、ホームにおける防災設備の見直しも行っていきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日々御家族等とは十分な情報交換やコミュニケーションに努めていると共に、リスクについても説明を行っている。特に変化が予測される御入居者については、御家族と頻りに連絡を取り合いリスクを未然に回避できるよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員が毎日バイタルチェックを行い、情報を共有している。急変、異変時には直ちに主治医や掛かり付け病院へ報告し、指示があれば受診を行っている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診記録や服薬管理表を常備し申し送りに含めると共に、特に薬が増えた場合には薬局からの説明書及び書籍等を通じ確認に努めている。薬によっては御家族に報告も行っている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日ラジオ体操を実施し運動に取り組んでいる。また水分補給にも心がけ、適時、適量摂取していただく様取り組んでいる。		

グループホーム ゆうげん荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きへの声かけ及び誘導を行なっているとともに、定期的な訪問歯科医師による治療及び口腔ケア、予防を行なっている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御入居者それぞれの記録用紙に食事量や水分量等の摂取量を記録している。また、お一人お一人の状態に合わせ気持ちよく十分な摂取ができるよう、量や形状等を考慮した支援を行っている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し日頃より感染症には危機感を持ち業務を行うよう努めている。特に流行時には予防対策についてのミーティングを行っている。インフルエンザに関しては予防接種を支援している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理を行う為、調理用具等の消毒チェック表を独自に作成し衛生管理及び安全管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には植木や花壇を設置し、玄関には季節の生け花やレイアウトを行って安心できるホームづくりに心がけている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には生け花や絵画、季節や時節に合わせた装飾を行い変化のある空間づくりに努めている。またホーム内は木目を基調としており、特にメインとなる食堂は吹き抜けで天井も高く開放的な空間である。		

グループホーム ゆうげん荘

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に数か所ソファを設置し自由に利用できる、またベランダにもイスを置き自由に出入りできるようにしている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御入居の際に出来る限り使い慣れた家具や持ち物を持ち込んで頂くようお願いしている。お部屋のレイアウトも御本人や御家族の希望により行っている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天候や気温に注意しながら換気や温度調整は頻繁に行っている。温度計も数か所設置し温度管理に努めている。また、全館床暖房を完備しているため冬季には自然的な暖房を心がけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差をなくし、移動の動線に添って手摺を設置している。また、ホーム内は全館床暖房を完備しており、特に冬季の温度管理は自然的で過ごしやすい環境づくりを行っている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレやお風呂にはレイアウトをした表示をし解りやすくしている。また各居室には手作りの表札や御利用者お気に入りの暖簾を下げたりし、混乱を防ぐ環境づくりに努めている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地が広く自然的な環境のためホームの外回りを御利用者は散歩コースとし、花摘み等もしている。		

グループホーム ゆうげん荘

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム ゆうげん荘

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

御利用者が人として楽しく生活できるよう人格や生き甲斐を最大限尊重した支援に努めており、職員は日々の業務について完全なマニュアル化は避け、御利用者本位でかつ、御利用者の不自由がない限り職員が活かせる業務遂行を行っている。